

2024 VOL.12

3/4
早春号

京都 便利堂 だより

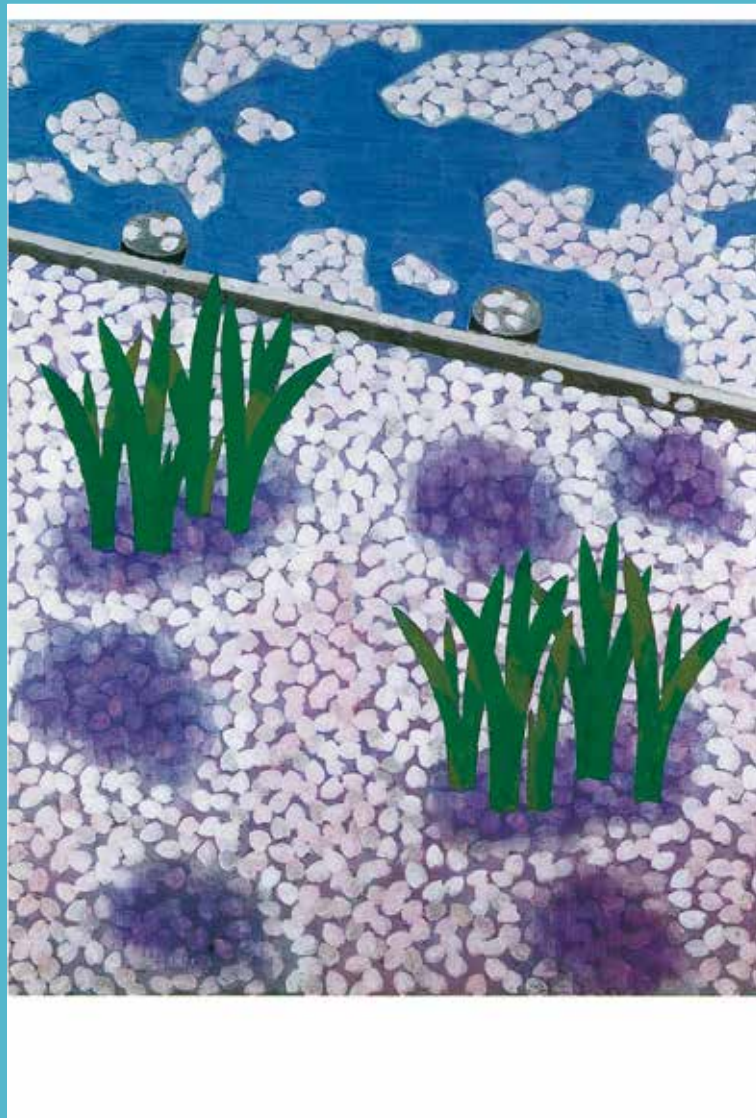
KYOTO
BENRIDO
DAYORI

アートのある暮らしで彩りを

便利堂ものづくりインタビュー

ハリバンアワード

記念すべき第10回受賞者◎2週間にわたる職人とのものづくり体験！



【特集】季節のおすすめ商品

源氏物語

春発売の新商品◎SHIHO 春色そろってます

日本文化の美とともに
歩み続けて135年



アートのある暮らし

●浸透印

日々の生活に美術を取り入れることは暮らしに彩りを与えてくれます。便利堂では、古典の名作から現代の作品までさまざまな美術作品をモチーフとしたアイテムを取り揃えています。毎号その中から、おすすめをピックアップして美術商品と暮らす日常風景をご紹介します。



写真：山内崇誠(便利堂写真工房)



浸透印〈鳥獣戯画〉全4種 印字直径17mm ¥660

お子さまの学びを可愛い鳥獣たちが応援！ また、ちょっとした贈り物に一押しすれば、チャーム的なアクセントを添えることができます。インク浸透式スタンプなので、スタンプ台は不要。約1,000回連続使用可能(インク補充はできません)。蓋つきなので携帯や保管に便利です。



本誌に記載された表示価格は、すべて税込です。

子どもたちにとって、春は区切りの季節。終業の安堵感や次の学年への期待や不安。寒暖入り混じるその気候さながら、子ども心にもこの時期はざわざわ落ち着かないものでした。そして忘れてはならないのが通知票。忙しい共働きの日々において、子どもの学校生活に思いを馳せる一つの機会となっています。「誰にでも優しくできた」とか「自ら進んで工夫した」とか、家とはまた違った子どもの姿を先生からの寸評で知り、成長を感じています。

◆

ふと今回、昔の自分の通知票を引っ張り出してみると、その所見が的を得ていたことに改めて驚かされました。時に褒め、時に戒めるコメントは、残念ながら当時の自分には全く響かず、子の親になってやっと気づき沁みみるとは、我ながら情けない限りですが、あこれが見守るといふことなのか？

と合点がいった瞬間でもありません。自ら消化し体得しない限り、どんな教えや指摘も上滑りのまま漂うばかり。それでもなお言葉をかけ見守り続ける、これが大人の唯一の役割なのかと苦笑しつつ、また新しい一年を過ごすわが子と、そして全ての子どもたちに幸多かれと願わずにはいられません。

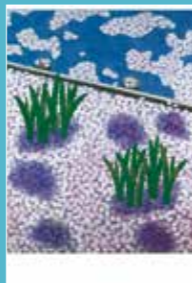
◆

さて、低学年のわが子は毎日親が音読と計算をチェックする課題があります。「今日はどう?」「今日は二重丸やな」なんて、評価の適当さにおいては共犯者。そんな毎夜のひとは、それはそれで愛おしく大切な親子の時間です。京都便利堂では、「評価印」として、ご家庭でのコミュニケーションや学びに使える美術モチーフのスタンプをご用意しております。新しい春に、親子で使えるお気に入りのアイテムを揃えるのはいかがでしょうか？

折々の絵はがき

《花の習作》福田平八郎
昭和36年頃 京都国立近代美術館蔵

絵はがきからは春の陽気に誘われて出かける人々のくすくすと楽しげな笑い声が聞こえてくるような気がしました。白い玉砂利に見えるのは、よく見ると舞い落ちた桜の花びらです。一枚ごとに異なる色合いが重なり、枝に咲いているのとはまた違う愛らしさをたたえています。まるで気がついた人だけがもらえる贈り物のようだなと思いました。



表紙の絵はがき：
《花の習作》福田平八郎
¥110



構図を引き締めるのが、画面を斜めに走る池を区切る板の直線。花びらが囲われた区域一面に浮かび止まる手前に対比して、奥のそれが水面を漂い拡散する姿は池の広がりを感じさせ、鮮やかにその静と動が描写されています。青々とした菖蒲の葉の緑とともに目をひくのは、盛土が淡い花びらに透ける美しい紫色。そこにはモダンなテキスタイルにも似た模様が広がりました。偶然が織りなす光景はどんなにか福田の心をときめかせたでしょう。季節の移ろいを見事に切り取った一枚です。

福田平八郎は京都で活躍した日本画家です。彼は「写生狂」を自称し、膨大なスケッチには彼の感じた瑞々しい心の震えやユニークな目線が多く遺されています。本作は平安神宮の庭を描いています。自然をこよなく愛した福田のふくよかな眼差しが感じられる、彼にしか描けない作品です。

京都便利堂

KYOTO BENRIDO DAYORI

2024 VOL.12
3/4
早春号

CONTENTS	
アートのある暮らし	02
便利堂もづくりインタビュー	
ハリバンアワード	04
季節のごあいさつ	10
美術はがきソムリエからの定期便	11
【特集】季節のおすすめ商品	
源氏物語 / 春の新品ほか	12
Information	16

2024年 企画・制作・発行 株式会社便利堂
3月1日発行 Director 鈴木 巧
(奇数月発行) Chief Staff 中嶋直子
Staff 西川 愛 / 増尾麻黄 / 渡邊 葵

※本誌記載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。



「HARIBAN AWARD 公式カタログ」
毎年受賞作品を収録したカタログを刊
行。印刷はコロタイプ。2023年版は4月
に刊行予定(写真は2022年版) ¥5,500



応募する前から、もし受賞できたら
これは決して他では体験することのできない
特別な機会になるだろうと思っていました。

つくづくすごい賞品ですね。応募する前から、もし受賞できたら、これは決して他では体験することができない特別な機会になるだろうと思っていました。私は写真家のキャリアの中で、暗室作業はもちろんデジタルプリントも好きで

ナウイルスが起こったんです。ハリバンアワードのもっとも素晴らしいところは便利堂に滞在して、職人のみなさんと一緒に作業ができること。せっかく受賞できたとしてもコロナ禍で旅行ができないとなれば京都滞在もかまいません。それなら作品をコロナ終焉までに完成させて、それから応募しようと思いました。ようやく今回のタイミングでそれが叶ったというわけです。

—— 目論み通りですね(笑)。便利堂では「コロタイプ」技術を継承し、次世代につながる活動を続けています。このハリバンアワードもその一つで、約170年の歴史を持つこの古典印刷技法と、現代写真のアート性をつなぐという取り組みです。最優秀賞を受賞した方には、便利堂にあるコロタイプ工房にお招きし、約2週間の滞在中で、熟練の職人と一緒に、受賞作品のコロタイププリントを制作していただく「アーティスト・イン・レジデンス」を提供しています。

クリスティン・ポッターさん Kristine Potter

テネシー州ナッシュビルを拠点に活動するアーティスト。作品では男性的原型やアメリカの風景、過去を神話化する文化的傾向を探索。2018年グッゲンハイム奨学金を授与、2019～20年にはグランプリ・イマージュ・ヴェヴェイを受賞。作品はハイ美術館、ジョージア美術館、スイスカメラ博物館、ヴェヴェイ財団など多くの公的・私的コレクションに収蔵されている。現在、ミドルテネシー州立大学写真学科で教鞭をとる。

コロタイプ写真コンペティション「HARIBAN AWARD」についてはこちら



便利堂
ものづくり
インタビュー
【第12回】

ハリバンアワード

◎クリスティン・ポッターさん

手ごろな商品を通じて美術をより身近に親しんでいただきたい。企画・デザインから制作まで、妥協のない姿勢で取り組んでいる便利堂のものづくりの裏側を、作り手の声で紹介していきます。

今回は、ハリバンアワード2023最優秀賞を受賞されたクリスティン・ポッターさんにコロタイプとの出会い、ものづくり体験などについてお話を伺ってきました。

聞き手：社長室 前田千穂

ハリバンアワード(HARIBAN AWARD)
便利堂が主催する写真コンペティション。古典印刷技法「コロタイプ」を、現在の作家に古くて新しい表現方法として使ってもらいたいという思いから2014年にスタート。今年で10回目の開催。毎回世界各国より400名を超える応募をいただいています。



——ハリバンアワード2023の最優秀賞受賞、おめでとうございます！
本当に素晴らしい賞に選んでいただいていると思う。私がこうして日本に来るのは2回目、25年ぶりということもあり、今回の滞在をものすごく楽しみにしていました。お招きいただきありがとうございます！

——クリスティンさんはどうやってハリバンアワードをお知りになったのですか？

最初はたくさんいる写真家仲間から教えてもらったんです。ぜひ応募したい！と思ったものの、その年は締め切りに間に合いませんでした。次の年には必ず…と考えていたところ新型コロナ

れしかったですね。今ではまるで自宅にいるみたいに快適です。

——それはよかったです。社内も見学していただきましたか？

すばらしかったですね。建物のなかに写真工房があることにもびっくりしましたが、製版や刷版もとても見ごたえがありました。すりガラスに職人さんが薬品をひき、乾かして露光したものが、次の日には印刷場で刷られている。その循環が一つの会社の中で行われていることに感動しました。ここで自分の作品をプリントしてもらえると、思うとわくわくしましたね。どの職人さんもプロフェッショナルです。一人ひとりが自信に満ち溢れていて、いい仲間がいる仕事場からはこんな風にもものが生まれるんだと思いました。

すし、長い間、何人ものプロのプリンターたちと仕事をしてきました。だからこそ、便利堂へ滞在して、職人の方々とコロタイプのプロセスを学べるこの機会がどんなに貴重かよくわかりましたし、どうしても逃したくなかったです。

——実際、便利堂へ来られていかがでしたか？

一番最初は、工房に漂うインキの匂いが懐かしく、はっとさせられました。憧れの場所とはいえ一人旅だったこともあり、見ず知らずの土地ですからもものすごく緊張していたのですが、皆さんにすぐ温かく迎えていただいた。ふっと肩の力が抜けるのを感じました。そのおかげで、思いがけず最初からリラックスして過ごせたことがう



——マイスターの山本とやりとりをしながら、受賞作のうち8イメージのコロナタイププリントを制作しました。ものすごくエキサイティングでした。最初は紙選びから始まりましたが、私が一番惹かれたのは、黄みがあったあたたかな色味の「鳥の子」です。作品は4点が風景、4点がポートレートでしたが、同じ黒でも何回刷り重ねた黒がいいのかなど、山本さんとは何度も話し合いました。



山本(左)、佐竹(右)

できること、できないこと、
お互い率直な意見交換ができたことは
本当に幸せなことでしたね。

——職人とのやり取りはいかがでしたか？

山本さんや助手の佐竹さんとのやり取りはつくづく豊かな経験でした。来る日も来る日も、山本さんは印刷場とレジデンスのベースである研究所を何度も往復しながら私の言葉に耳を傾けてくれました。私はコロナタイプのプリンターとして長い経験に裏打ちされた山本さんの意見が聞きたかった。「作品をこんな風に見せたい」「肌のディテールを出したい」など、まずは自分の思いをはっきり伝えるようにしました。山本さんは山本さんで、私が伝えるイメージをできる限り再現すべく力を注いでくれました。できること、できないこと、お互い率直な意見交換ができたのは本当に幸せなことでしたね。

——山本にとっても挑戦だったと聞いています。

山本さんは毎回、レジデンスの機会に作家の方々とこうしたやり取りを繰り返してきてきたんでしょうね。作家の思いはそれぞれ違いますから、そのつど丁寧なやり取りをして、相手の思いを汲み取り、それだけでなく、作家が満足するようにその場その場、アドリブで研究を重ねて来られたのではないのでしょうか。お話しする中でそう

した歴史を感じました。彼は何度となく、私のごくわずかな身振り手振りから、「ここをもっと明るくしたいんだな」「これは違うんだな」ってすぐに汲み取ってくれましたから。

——今回のクリスティンさんの作品では濃い調子のプリントが印象に残りました。

そうですね、低いトーンの描写が多くて山本さんにはご苦労をおかけしました。私はデジタルカメラで撮影したのですが、それは暗い場所や風景を描写的に撮りたかったからです。そんな現代的なデジタル画像を、山本さんは

コロナタイプという歴史あるプリント技術と美しく交差させながら豊かに描写してくれました。彼の技術がディテールを引き出してくれてどんなに驚いたか知れません。写真の再現って本当に難しいものですが、コロナタイプなら可能なんだと実感しました。

——そういつてただけてうれしいです。クリスティンさんもご自身でコロナタイププリントされたそうですね。

作品として販売するために8×10インチサイズの手刷りプリントに挑戦したのですが、大きなローラーだったこともあり、最初はコントロールが効かず難しかったですね。でもその苦労を上回る面白さがありました。ただ、自分の思ったようにはなかなか調子が出なくて…。頭にはちゃんとイメージがあったので、自分の手でそこに近づけるのが非常に難しかったです。

——それは、より黒く…ということですか？

そうですね。より暗く、より黒く仕上げたいけれど、黒は重ねるとどうしてもつぶれてしまいます。そうした面で改めて職人のみなさんのすごさを知りましたね。エディションをそろえるのも難しく何度もやり直したんですよ。急に気温が下がると版が乾い

てしまうところにも苦労しました。実は私がコロナタイプを知ったのは学生時代のことでしたが、今回自分で刷ってみて、たしかに聞いていた通りの大変な技術だと実感しました。

——クリスティンさんがコロナタイプを知ったのは大学の授業ですか？

そうですね、リチャード・ベンソン教授の授業でした。彼はオフセット印刷のパイオニアでしたが、彼の工房へ行ったとき、様々な古典技法のプリントがピンで留めてあったんです。それぞれについて紹介してもらったなかにコロナタイプもありました。彼は「コロナタイプはすごく繊細で美しいものができるけど、ものすごく難しい技法だ」と教えてくれました。実際やってみて、本当にその通りだと思いました。

——長い時を経て、学生時代に教わった古典技法に出会うなんて、きつとご縁があったんでしょうね。

ほんとですね。私も大学でファイナーートを教えているので、学生たちにコロナタイプのことを伝えたいと思うけれど、現代の印刷技術とコロナタイプはあまりにも正反対の性質でしょう？今はボタン一つ押せばインクジェットでなんだってプリントされる時代ですからね。彼らにコロナタイプのすばらし

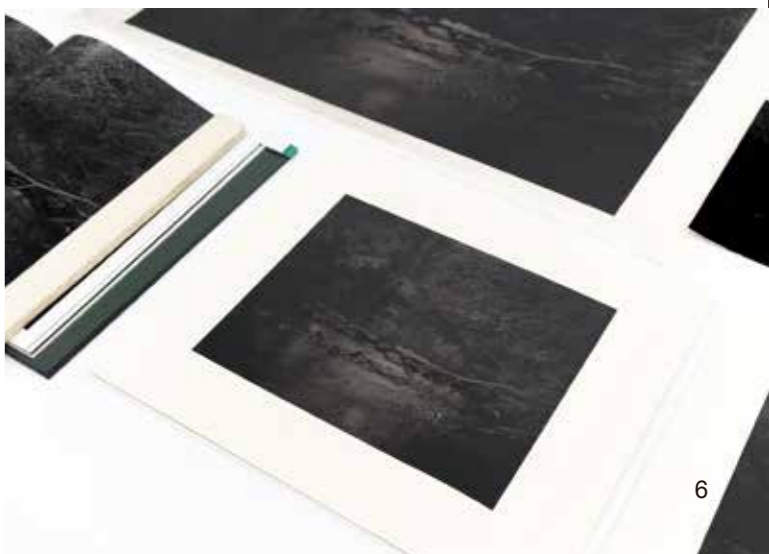


《ダーク・ウォーターズ》の大きなテーマは
「女性に対する暴力」です。

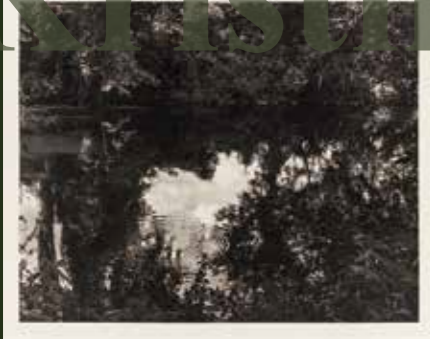
さを説明するとなると、もつとずつとベーシックなところから伝えないとなかなか難しいかもしれません。

——それはコロナタイプを次の世代に継承したいという私たちにとっても課題の一つです。さて、完成したクリスティンさんの作品展示は、4月に京都市内で展覧を行います。

日本で私の作品を紹介していただけることに感激しています。今回の展示《ダーク・ウォーターズ》の大きなテーマは「女性に対する暴力」です。作品ではアメリカの特定の地域の女性に対する暴力を捉えています。この問題はアメリカに限ったことではありません。世界中で語られる物語にはしばしば「女性への虐待」が一見それとはわからないように描かれています。この



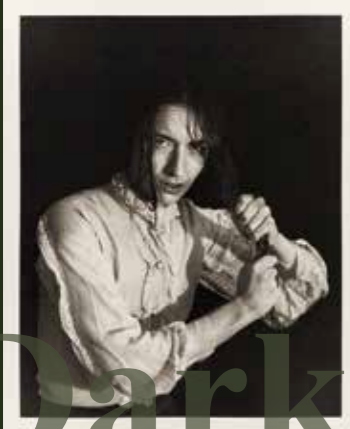
Kristine Potter



クリスティン・ポッター 《ダーク・ウォーターズ》展

展示会期：4月13日(土) - 28日(日)
時間：10:00 - 17:00 会期中無休
入場：無料
会場：galleryMain
京都市下京区麩屋町通五条上ル下鱈形町 543-2F
主催：株式会社便利堂

アメリカ南東部には「マダー・クリーク」や「ブラッディ・リバー」など、凄惨な事件現場となったことにちなんで暴力的な名前が付けられた水域があり、この《ダーク・ウォーターズ》はその周辺取材し制作されました。クリスティンさんは、これらの事件現場となった水域の風景と、被害者の女性を投影したポートレートを並べることで、今もなお世界中で、歌や映画、テレビなどで語られる物語には「女性への虐待」が潜んでいることを視覚化しようとしています。
今回の展示会が、見る人にそのことを意識させ、そうした物語が消費されている意味を考えさせるきっかけになることを願っています。



Dark Waters



「やるしかない」とハッパをかけたいくらいです。
だって、がんばった結果のレジデンス体験は
本当に素晴らしいですから。



※過去にメルマガで配信したインタビューのバックナンバーはこちら



戦する方へメッセージをお願いします。
一番大切なことは、学ぶことに興味をもつようにすることではないでしょうか。アワードへどんなプロジェクトを持ち込むかをよく考えて、そのうえでとにかく挑戦してほしいですね。もう「やるしかない！」とハッパをかけたいくらいです。だってがんばった結果のレジデンス体験は本当に素晴らしいですから。それだけは言えます。それまで知らなかった新しい文化に触れることはきっとこれからの作品制作にも大きな影響を及ぼすはずです。ぜひあなたも体験してください。



展示会が、そのような物語が常に消費されている意味を考えるきっかけになれば…と思います。

——難しいテーマですが、多くの方にご覧いただきたいですね。

アメリカのみならず、日本、ヨーロッパ、他の地域でも、この作品が何を意味するのか、みんなで共有できるきっかけになればうれしいです。それはきっと私たちをより健全な世界へ導いてくれるのではないかと。そんな風に思っています。

——ところで、クリスティンさんはハリバンアワードの記念すべき10人目の受賞者です。

ふふふ、うれしいですね。ということとはわたしの前に9人ものアーティスト

このレジデンス自体が 素晴らしい文化交流の場になっている… と思いませんか？

トがいるということですよ？ 10人目として思うのは、ぜひ私の後に10人も20人も、もっともつと受賞者が続いてほしいということです。体験して改めて思いますが、ハリバンアワードのレジデンスは、コロタイプを学ぶためのこれ以上ない教育の場でした。こんな体験は世界中どこを探してもできません。しかも、これまで受賞者は世界中から訪れていると聞きました。それはつまり、このレジデンス自体が素晴らしい文化交流の場になっている…と思いませんか？

——これまで、受賞者の方とのコミュニケーションからはいつも大きな刺激をいただけてきました。私たちがコロタイプを通して文化交流の場が作れているとしたら、そんなうれしいことはありません。

2週間、知らない土地に身を置いて制作に取り組めるのは贅沢な経験でした。山本さんとのやり取りはエキサイティングで、私の方こそ毎日ものすごく刺激を受けていました。コミュニケーションの結果、生まれたプリントは間違いなくこれまでで最も美しいものですが、それを人の手が生み出したことに感動しました。普段、私はいつも大学の仕事のことばかり考えているので、今回はそこから離れてどれだ

けリラックスできたかしれません。実は滞在中に担当している学生たちの成績をつけていたのですが、普段より採点が甘くなった気がするくらいです。

——学生さんたちはラッキーでしたね。京都では観光もされましたか？

25年前、バックパックで京都をまわった時には大徳寺近くの宿に泊まり、自転車で三十三間堂へ行きました。それが懐かしくて、今回も同じルートへ出かけましたが楽しかったですね。清水寺の夜間拝観へも行きました。お寺から見た日の入りの美しさは忘れられません。

——京都での時間を楽しんでいただけて何よりでした。

そうそう、研究所の壁にはこれまでのハリバンアワード受賞者のサインが書かれていますよね？ 今回、私もぜひサインを…と言われました。だから私はこれからの10年のため、これまでとは違う、新しい場所にサインしたんです。だってこれから受賞するたくさん作家たちのためには広いスペースが必要ですからね。

——うわあ、ありがとうございます。私たちにとっても励みになります。最後に、これからハリバンアワードに挑

お花見のお誘い

3月下旬～5月上旬

「手紙なんてちよっとおかげさかな。」でも、感謝やお礼、ともに喜び合うお祝いの気持ちなど、ときには手書きではがきやメッセージカードにちよっと季節の言葉を添えて送ってみてはいかがでしょう。折々の季節のごあいさつをご紹介します。

暴れん坊將軍は桜がお好き
落語の「長屋の花見」は、貧乏長屋の大家に誘われて店子たちが連れ立って上野へ花見に行く話です。そもそも桜が春を代表する花になったのは平安時代で、貴族や武家など限られた人たちが楽しんだ花見が庶民もわいわい楽しむ花見に変わったのは江戸時代とのこと。「享保の改革」でひろく庶民にも質素節約を求めた八代將軍徳川吉宗が、東の間の娯楽の場として花見を流行らせたのだそうです。それまで桜といえばお寺の境内などに咲く一本桜だったのを、隅田川、飛鳥山、御殿山、小金井堤などに数千本の桜を植えて花

見を奨励、一斉に咲く桜をめあてに人々は花見弁当を持って繰り出し、樹下に毛氈を敷き唄えや踊れやと宴を楽しむようになりました。桜が植えられた川堤は沢山の見物客で足元が踏み固められ、そのまま治水対策にもなったということですから、吉宗公の深慮にはあっぱれですね。

見を奨励、一斉に咲く桜をめあてにす。桜の絵はがきに「花を見ながら一杯どうですか？」など一言添えて。豊富な桜モチーフの絵はがき！便利堂の絵はがきで、特に作品数が多いのは桜のモチーフです。日本画家が清水寺、醍醐寺、平安神宮などの京都の風景を描いたシリーズや、歌川重の上野や吉宗公由来の隅田川を描いた江戸名所。桃山時代の豪華絢爛なお花見《花下遊楽図屏風》や話題の《源氏物語》の場面にも。いつの時代も人の心をときめかせてきた桜。実際にお出掛けが叶わなくても、様々な作品上で時空を超えたお花見ができるのも、絵はがきならではの楽しみですね。

Season Greetings vol.12



《「又平に」句自画賛》与謝蕪村

春のごあいさつには



《醍醐の桜》木下章

便利堂公式オンラインショップでは、春のごあいさつに最適な絵はがきを揃えております。



美術はがきソムリエからの定期便

- 毎月〈ふみの日〉に絵はがき 10 枚を 1 年間お届けします。
- 月々わずか 1,200 円 (税・送料込)
■年間 14,400 円：月々 1,200 円(税・送料込) × 12 ヶ月※
- 毎回、コロタイプ絵はがき〈季趣五題〉(385 円)が必ず 1 枚入っています。
- 定価 1,675 円の約 28% off (通常はがき 4 枚分お得)
- 特典も盛り沢山！

①毎回、お届け作品をやさしく解説した〈特製ブックレット〉付き



- ②年間一括払いでのお申し込みの方には、初回月に絵はがき立てをプレゼント (先着 100 名様)
- ③さらにもれなく 2 大プレゼント
◆ 11 月に、〈わたしだけの絵はがきカレンダー 2025〉
◆ 最終お届け月に、全 120 枚が収納できる〈定期便特製コレクションボックス〉

※途中解約はいつでも可能です。月々払いはクレジットのみとなります。くわしくは専用サイトをご確認ください。

毎月のお楽しみ●「美術はがき」がある暮らし

美術はがきソムリエからの定期便

毎月ふみの日にソムリエが厳選した美術はがきが 1 年間ご自宅に届きます。

3月〈花のうたげ〉



1

4月〈清明〉



2

くわしくは専用サイトから

- 1 《花宴図(部分)》狩野探信 逸翁美術館
 - 2 《東京拾二題・堀切志ようぶ》吉田博 東京都江戸東京博物館
 - 3 《宇治の茶摘》小川一真 フランス国立ギメ東洋美術館
 - 4 《踊子》小林かいち 伊香保 保科美術館
 - 5 《桃太郎図(部分)》神坂雪佳
 - 6 《祇園の町並》広田多津 京都文化博物館
 - 7 《奥の細道句抄絵 田一枚植系て立ち去る柳かな》小野竹喬 京都国立近代美術館
 - 8 《樹花鳥獸図屏風(右隻)》伊藤若冲 静岡県立美術館
- 2・4は¥385、それ以外は¥110

4月〈清明〉



3

3月〈花のうたげ〉



4

4月〈清明〉



5

3月〈花のうたげ〉



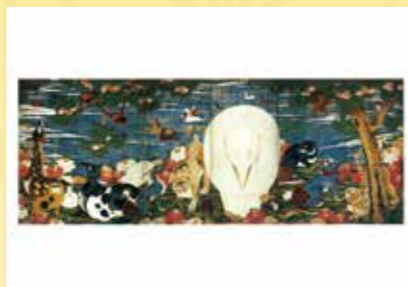
6

4月〈清明〉



7

3月〈花のうたげ〉



8



増尾麻黄(ますお・あさぎ)：美術はがきソムリエとして、手のひらサイズの美術館〈絵はがき〉の楽しみ方をご提案します。澄ました顔で「春のおすすめですよ」と言いながら、裏では花粉と闘っています。全敗です。店舗で見かけたらぜひお声をかけてください。

今回の定期便は、春うららかな時期にお届けする絵はがきです。
3月のテーマは「花のうたげ」。桜だけに待ったあたたかい陽気！桜だけではない花々、その花に酔う人や生き物たちが、きつとお部屋に春を運んでくれますよ。
4月は「清明」。春色から一転、良い風が吹いてくるような、読んで字のごとく、清々しく・明るく・生き生きとした絵はがきを集めました。花を愛でているうちに、あつという間に初夏の足音が近づくこの頃。日常の様々なシーンの彩りになれば幸いです。

源氏物語

光源氏の生涯を通して
恋愛や人間関係など人の心の動きをリアルに描いた
『源氏物語』は、千年以上の時を越えて
今なお人々に読み親しまれています。
便利堂の美術商品に触れて、
平安時代の雅な世界観や
いつの世も変わらぬ人の心の移ろいに
思いを寄せてみるのも一興です。

国宝《源氏物語絵巻 五島本》

五島美術館蔵

《源氏物語絵巻》は、平安時代後期に『源氏物語』を絵巻物にしたもので、全54帖の内、現存するのは14帖分です。現在は五島美術館と徳川美術館に分蔵されています。



〈色紙〉
4柄(夕霧、鈴虫、御法、詞書) 各¥1,650

夕霧



〈縮小絵巻物〉
¥8,800

重要文化財《源氏物語絵色紙帖》

土佐光吉筆 京都国立博物館蔵

《源氏物語色紙帖》は、『源氏物語』全54帖を54枚の色紙に描いたもので、桃山期に作成された源氏画帖の代表的な作品です。「横笛」以降は土佐派の絵師、長次郎の作。



葵 花宴 若紫 玉鬘 野分 濡標 空蝉 槿 胡蝶 若菜上



NEW 3月6日発売
〈クリアファイル〉
2柄 各¥330

若紫



NEW 3月6日発売
〈竹しおり〉
10柄 各¥440

野分

掲載商品以外にも多数取り揃えています。



重要文化財《紫式部日記絵巻断簡》
東京国立博物館蔵

〈コロタイプ複製〉
¥103,400

画面寸法：21.0 × 79.6cm
額寸法：35.5 × 100.5cm



祝宴

〈色紙〉
4柄(五十日の祝、公卿、祝宴、詞書)
各¥1,650



国宝《紫式部日記絵詞 五島本》

五島美術館蔵

《紫式部日記絵詞》は、紫式部が藤原道長の長女彰子に仕えていた時に書き残した『紫式部日記』を描いた鎌倉時代の作品です。現存するのは26段分で、五島美術館と藤田美術館、断簡として東京国立博物館などに分蔵されています。



〈縮小絵巻物〉
¥8,800



〈絵はがきセット〉
6枚組 各¥524



〈筆ペン〉
¥550

国宝《源氏物語図屏風》

俵屋宗達筆 静嘉堂文庫美術館蔵



〈縮小屏風〉
¥9,900

濡標



関屋

NEW 3月22日発売

〈御財布香〉
4柄 各¥495



紫の上(沈香)



光源氏(白檀)



若紫(白桃)



朧月夜(茉莉花)



野分

〈色紙〉
3柄(野分、葵、花宴) 各¥1,980



文章が主役だからこそシンプルに。大切な筆記具を持運ぶ道具だからこそ丈夫に。装飾を最低限に抑え、色や素材の風合いでほんの少しの遊び心を効かせた粋な商品です。便箋には土佐和紙を用い、上質な大人の文具をご提案します。

- 1 便箋セット
4色 各¥880
- 2 一筆箋セット
4色 各¥660
- 3 A5 変形ノート
5色 各¥1,100
- 4 ペンケース
3色 各¥1,980



この時代だからこそ手書きをおすすめする文具をつくりたい。そんな想いから「SHIHO 便利堂」は生まれました。落ち着いた時間をつくり、自分を見つめ、相手を想う時間はきっとあなたの日々の生活を豊かにしてくれます。〈SHIHO 便利堂〉は、そんな暮らしに寄りそう文具です。

現代の暮らしに寄りそう文具

春色そろってます・・・SHIHO 便利堂



〈SHIHO 便利堂〉は、明治より絵葉書を扱う便利堂が文房四宝の「四宝」より命名した現代に即した和文具を提案するブランドです



- 5 お祝い用はがき
8種 各¥220
- 6 はがき
8種 各¥110
- 7 金封
4種 各¥330
- 8 朱印帖
4種 各¥1,980

伊藤若冲の《玄圃瑤華》より、四季の草花をモチーフにしたシリーズ。コントラストの利いた作品は、贈る気持ちを相手に強く印象付けてくれるとともに、書き手の気持ちを高揚させてくれます。



扇子
4種 各¥3,300



- 9 ぼち袋 (3枚入)
5種 各¥440
- 10 文香 (3個入)
4種 各¥660

表面

裏面

【特集】季節のおすすめ商品②



《四季花鳥図巻》酒井抱一筆



《人物鳥獣画巻》長沢芦雪筆



《東京十二題 五月雨ふる山王》川瀬巴水筆



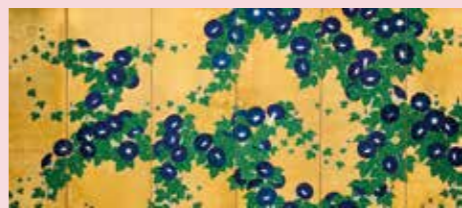
同上



《東京十二題 春のあたご山》川瀬巴水筆



《対柳居画譜》柴田是真筆



《朝顔図屏風》鈴木其一筆



《金魚づくし 玉や玉や》歌川国芳筆



《鼠よけの猫》歌川国芳筆



《人物鳥獣画巻》長沢芦雪筆

春は不思議と文具を新調したくなる季節。春から夏にかけての目にも華やかな作品をモチーフにした新商品をご紹介します。

- 一筆箋 各¥440
- ミニクリアファイル 各¥220



春の新商品

【特集】季節のおすすめ商品②



Information

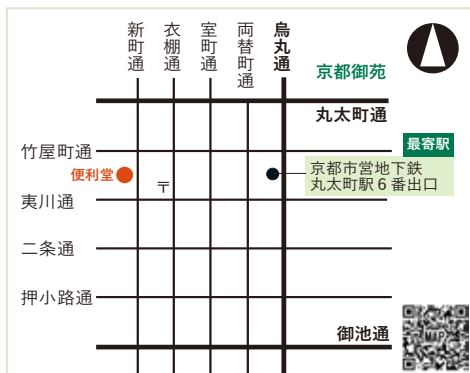
京都便利堂本店

GW 期間中(4月28日～5月6日)は休まず営業いたします。

便利堂本社 1F には、美術商品を取り揃えた京都便利堂本店を開設しております。ぜひ京都にお越しの際はお立ち寄りください。

【営業時間】 10:00～19:00
【定休日】 日・祝日
【Telephone】 075-231-4351 (代表)

Instagram@kyoto.benrido
X@kyotobenrido
facebook@kyotobenrido.shop



【アクセス】

〒604-0093
京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町 302 番地

〈公共交通機関でお越しの方〉

- ・市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車 ⑥番出口より徒歩7分
- ・市バス 「文化庁前・府庁前」下車徒歩5分

〈お車・タクシーでお越しの方〉

- ・京都駅から15分、お客様駐車場あります。
- ・タクシードライバーに「新町通り夷川(えびすがわ)上がる」とお伝えください。

コロナタイプギャラリー

便利堂コロナタイプギャラリー〈春季〉企画展示
工房開設 120 年記念 野村佐紀子写真展《承前啓後》



京都便利堂本店がある便利堂本社には、〈コロナタイプギャラリー〉が併設されています。2024 年は工房開設から 120 年となるのを記念し、写真家野村佐紀子氏が 1 世紀以上にわたる伝統を受け継いだ現在の工房の風景と職人の姿を写し取り、職人がコロナタイププリントに仕上げた作品を展覧します。

会期：2024 年 4 月 1 日(月)～6 月 8 日(土)
開廊：10:00～12:00/13:00～17:00
休廊：日・祝日 (※ただし KYOTOGRAPHIE 開催期間の 4 月 13 日(土)～5 月 12 日(日)は、無休
入場：無料